

平成29年度取組み進捗状況一覧

資料2－2

団体名	神奈川県医療課	厚木医師会	厚木市立病院	訪問看護ステーションもみじ	訪問看護ステーション ふたばらいふ
課題区分	－	体制構築、コーディネート、人材育成、その他	体制構築	人材育成	人材育成
(1)項目・内容	厚木地域小児等在宅医療連絡会議の実施 「厚木地域の関係機関が地域の課題や取組みについて意見交換を行う」	－	8 退院前のケースカンファレンス、情報交換 【内容】 訪問看護ステーションと情報交換の場を設ける。	12 小児訪問看護受入ステーション増に向けた勉強会 【内容】 小児訪問看護ステーションの連携体制をつくるため、勉強会や交流会を開催	13 小児訪問看護をテーマとした研修会
(2)29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	・第1回小田原地域小児等在宅医療連絡会議の実施（29年10月23日） （議題1）厚木地域における平成29年度取組みの進捗状況について	平成28年度2回の連絡会議の後、平成29年1月に厚愛地区小児在宅医療・療養連絡会議を開催。厚愛地区における小児在宅に関わる職種の参加があり、厚愛地区における小児等在宅医療を受けている患者さんの実態の把握ができ、課題が出された 平成29年度厚木医師会は総合確保基金を利用し、人材育成・体制構築を目的とした小児在宅の講演会を企画。7月20日神奈川県子ども医療センター星野先生の講演会を開催した。 厚木医師会は、地域包括ケアシステム構築のための医療の相談支援事業を開始する予定だが、小児等在宅に関しての相談事業も検討している 今後も厚愛地区小児在宅医療・療養連絡会議の定期的な開催が必要 厚愛地区症に在宅・療養連絡会議で出された課題について国や県等へ発信が必要と考える	・病棟から調整依頼を受け、訪問看護ステーション、訪問医らと退院前カンファレンスを実施し情報共有している。また継続看護依頼書を作成している。 ・医療機関から外来フォローの依頼を受け、訪問看護導入の説明をするなどしている。 ・今後も継続していく。	厚木市医療福祉連絡会訪問看護部会での「小児訪問看護の連携」について発表。 各訪問看護ステーションの興味のある職員が参加。 数年前よりも受入れステーションは増えている印象を受ける。 今後、訪問看護部会としてではなく、継続的な勉強会方法を検討。	保健福祉事務所の吉澤さん、多機能事業所にじいろの今堀さん、兼子さん（PT）とお話しする機会があり、研修会について検討させて頂いた。小児のリハビリテーションについて、関係機関の個人情報保護の問題について等、会議に集まっている管理者レベルでは無く、在宅の小児に直接関わっている方たちを巻き込んだ研修を計画していき、お互いに悩みを相談出来たり、顔が見える関係を作って行けることが望ましいのではと感じた。
(3)取組みを進める中で見えてきた課題	・医療課による事務局運営は29年度に終了するため、30年度以降の運営体制をどのようにするとよいか。	・福祉面でのコーディネーターはいるが医療面のコーディネーターがない ・医療機器を使用しているお子さんはバス通学できない ・養護学校卒業後の行き先がない ・災害時の支援体制ができていない  など	・成人年齢で小児科の患者は、介護する家族が高齢者のことがある。その場合、制度を利用することなく夫婦で介護をがんばっている。介護負担軽減のために患者への制度説明やサービス導入の関わりがどのようになっているか知りたい。	各ステーション内でケースのことで抱えていることもあり定期的に相談し合える環境づくり、継続的な交流会等、機関連携を図りながら実施していく必要があると思われる。	1つの事業所で研修や、会合を計画していくことが難しいと感じました。
(4)課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	－	<協力を得たい機関> 厚木市立病院医師、訪問看護ステーション、厚木市障害福祉課、厚木市福祉総務課、厚木市健康づくり課、愛川町福祉支援課、愛川町健康推進課、清川村保健福祉課、厚木児童相談所、厚木保健福祉事務所保健福祉課、座間養護学校	・育児支援や障がい児支援についての情報提供について。 ・困っているケースを把握した場合の連絡先、報告を受ける体制がどのようになっているか。	<協力を得たい機関> ゆいはと、障がい福祉課、保健福祉事務所、座間養護学校等	研修の企画等は、一つの事業所で行うことは難しいので、行政や、保健福祉事務所の方にもご協力いただけると幸いです。また、それぞれの機関の小児に興味のある方が集まれるような体制を作れると良いと思っています。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	厚木保健福祉事務所	厚木市健康づくり課①	厚木市健康づくり課②	厚木市健康づくり課③	厚木市障がい者基幹相談支援センター
課題区分	体制構築    コーディネート	体制構築	コーディネート	普及啓発	体制構築
(1)項目・内容	①「1    関係機関が情報共有する会議の定期的な実施    ＊厚木医師会開催」 ②「8    退院前のケースカンファレンス、情報交換」 ③「9    役割に応じたコーディネート機能の確立」	1    体制構築    関係機関が情報共有する会議の定期的な実施 【内容】 会議において顔の見える関係づくりやコーディネーター機能を明確化する	9    コーディネート    役割に応じたコーディネート機能の確立 【内容】 こどもの成長とともに関わる機関が変化していくことから、成長段階に合わせた標準的なコーディネーター機関を関係機関が共通認識することで、コーディネーターの明確化を図る。	20    普及啓発    育児支援サービスの利用推進 【内容】 障害者サービスだけでなく、育児支援サービスの利用の推進を図るため、関係機関へ障害児支援の必要性について普及啓発を行う。	4    放課後等デイサービス連絡会の実施
(2)29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	①    医師会主催の連絡会議の事務局を担当（H28年度 H29.1.23 実施） ②    H29.4月～9月    退院予定の人工呼吸器装着児について、北里大学病院が主催した退院前カンファレンスに、訪問看護ステーション、厚木市関係者、当所保健師等が参加した。（児の体調不安定にて入院延長中） ③    H29年度の医師会主催の連絡会議の議題予定。H29.11.28に向けて準備中。	小児医療に関して、各関係機関（医師会、県、医療機関等）が実施する小児在宅医療に関する会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努めている。 また、在宅医療機器を使用して在宅で生活する方については、対象者の状況によっては、マイサポートブックを利用することによって、保護者の負担が軽減されるよう努めていく。	退院前カンファレンスに出席し、在宅移行後に保護者の方をフォローするため、関係機関と協力してコーディネート機能が果たせるようにする。	子育て支援事業を展開している子育て支援センターに、本事業の状況を情報提供し、今後子育て支援のサービスが必要な対象者について協力いただけるよう依頼を行った。（利用希望については、個別に相談し、協議する予定。）	平成29年2月に放課後等デイサービス連絡会を立ち上げ、平成29年度は6月に開催し、医療ケアが必要な子ども達の利用できる資源が少ないという課題を提起し、連絡会で検討していくことことにした。
(3)取組みを進める中で見えてきた課題	当会議における主な課題とはなっていませんが、当所業務の中で医療機器装着児（特に人工呼吸器・吸引等、生命維持に電源を必要とする児）の災害時支援が課題であり、市町村担当課と連携して、取り組んでいるところです。	小児在宅医療については、個性が高いため、困った点や不明な点等を相談し合える、顔の見える関係づくりが不可欠である。	同左	同左	結果的に利用には結びつかなかったが、気管切開をしているが、数時間ならば吸引の必要のないお子さんが、自宅近くの看護師の配置のない事業所利用に向けて、相談から体験までつなげることができた。
(4)課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	特になし（別の会議等で対応中）	小児在宅医療を利用されている対象者について、職場内で事例を共有し、同様な対象者に対して、できるだけスムーズな対応ができるよう、事例を積み重ねていくこと。 今後も、本会議や小児在宅医療に関する会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努める。（医療機関・訪問看護ステーション・サービス提供事業所等）	同左	同左	事業所に専属の看護師を配置することは非常に難しいが、専属ではなくても良いので、看護師の支援が受けられる体制づくり。また、看護師不在でも利用の可能性があるお子さんへは、体験の段階で、専門職の評価が受けられると良い

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	訪問介護てだすけ	厚木児童相談所	厚木市療育相談センター「まめの木」 (厚木市福祉総務課)	厚木市障がい福祉課①	厚木市障がい福祉課②
課題区分	－	資源把握	体制構築	普及啓発	体制構築
(1)項目・内容	－	16 厚木地域の福祉資源調査	1 関係機関が情報共有する会議の定期的な実施 【内容】 ・厚木地域の関係機関が地域の課題や取り組みについて定期的に情報交換を行う ・会議において顔の見える関係づくりやコーディネーター機能を明確化する ・マイサポートブック等を活用し横のつながりを強化する	22 『在宅医療でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』の関係者間共有 【内容】 『在宅医療でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』をより充実させ、対象者及び関係機関へ配布、市ホームページへ掲載する等により広く周知する	6 医療的ケアに対応できる施設の拡大 【内容】 医療的ケアに対応できる医療機関施設を増やすため、厚木市内の医療、福祉関係機関へ協力を要請する。
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	訪問介護として医療行為に関する事は出来ない中、吸引や胃ろう行為等は資格があるのでさせて頂いている。医療行為以外に介護として出来る事は協力している。	これまでの記録等から、厚木市の重症児が利用している事業所、利用頻度等を抽出してきている。	・会議や研修等に積極的に参加する ・マイサポートブックの配布	課内検討中。	小児懇談会への出席等によりニーズの情報収集に努めている。また、現在利用できる制度の拡大を検討していく。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	医療関係や福祉機関からの研修やアドバイス・情報等、また、疑問に思った事等をいつでも気軽に聞ける場があると良い。	－	・医療的ケア児や重症心身障害児は、まめの木以前にすでに関わっている機関（病院、県保健福祉事務所、市健康づくり課のフォローなど）がある場合がある。そこからまめの木への引き継ぎにマイサポートブックが活用できないか。	内容や地域などの範囲についてどこまで盛り込むか。	医療機関の体制等の問題があるため、市のみで受入れ施設の拡大を図ることは難しい。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	医療・福祉関係など。	－	・医療的ケア児や重症心身障害児が退院する時や、小児慢性特定疾病の手続き時、市保健師が家庭訪問に行ったとき等、マイサポートブックの紹介をしてもらうことはできないか（医療機関・県保健福祉事務所・健康づくり課）	<協力を得たい機関> 保健所、ゆいはあとなど。盛り込む内容について相談していきたい。	各医療機関と連携をするためにどのような形態が想定できるのか知恵をいただきたい。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	神奈川県立座間養護学校①	神奈川県立座間養護学校②	神奈川県立こども医療センター 退院・在宅医療支援室	総合療育相談センター	北里大学東病院 小児在宅支援センター
課題区分	人材育成	情報集約	人材育成    コーディネート	情報集約	普及啓発
(1)項目・内容	14 学校内研修の実施 【内容】 一般教員向けに小児等在宅関係機関やネットワーク、サポート体制に関する研修の実施	17 情報集約 【内容】 「あんしんノート」を参考に「マイサポートブック」の編集と利用方法を検討 関係機関との引継ぎのための資料作成の負担が大きいので、ライフステージ全般で利用できる対象児専用の「マイサポートブック」の編集と利用範囲の拡大 学校・医療機関・施設・事業所で統一様式を作り多くの関係者間で共有する	15 支援者向け研修会・連携カンファレンスの実施  10 コーディネーター役の育成方法検討	18 情報集約 【内容】 相談支援機関向けに情報一覧表を作成 広域的に把握することが必要な短期入所サービス事業所の状況再確認及びレスパイト入院実施医療機関の状況確認を行い、相談支援機関向けに情報一覧表を作成し、情報提供する。	22 利用者本人や医療機関に向けた情報提供
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	現時点では未実施。今年度学校全体における研究体系について整理している。今後の実施に向けて、校内でどの係が主管し実施するかを検討する。	保護者、医療機関、施設、事業所等で必要な情報の項目について、ばざばねっとの「あんしんノート」をもとにしたアンケートを作成中。引継ぎをするために最低限必要な情報内容は何か、保護者が今までの経験の中で引継ぎの際に苦労してきたことは何かなど、意見を集めた上で「マイサポートブック」の編集について検討したい。	・15 人材育成について、支援者向けに小児の医療ケア実技研修会を年5回実施 交流会を年1回、小児科医・在宅医・地域連携カンファレンス年1回、介護職対象医療ケア実技研修会を年1回開催中である。 ・10 コーディネーター養成研修として、福祉職向けに「医療的ケアを必要とするこどもの支援」研修会を2017年12月と2018年1月に実施予定である。	準備中。H27年度に作成した短期入所一覧表を基に、医療課実施のメディカルショートステイ実施状況調査と併せて、状況確認を行い、厚木地域の短期入所・レスパイト入院一覧表を作成する。9月中旬に医療型障害児入所施設に一覧表の修正を投げかける。	活動実績報告を兼ねた見学会の企画開催を検討中（年度内実施予定）。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	—	各関係機関によって、最低限必要とする情報内容が異なることが考えられる。また、教育で使用している内容も県と市によって様式が異なる可能性がある。どこまで統一様式としてまとめられるか、アンケート結果に応じて、検討する必要がある。	・支援者向け研修会では、基本的な知識が学べるように計画しているが、患者の重症化が目立ってきている為、研修内容の見直しも必要である。現在では、研修に参加する職種別に計画してほしい等の要望がある。現状では、実施は難しく研修内容の充実に向けた対応が必要である。 ・研修後のアンケートから、医師との連携が不足している事への悩みに対して、相談対応は行っている。しかし、医師、在宅医等との連携をスムーズにできるよう介入が必要である。	—	他機関の方々にご参加いただきやすい開催日時設定について。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	—	アンケート内容に関する意見と、「あんしんノート」に掲載する項目を調整する際の意見を、それぞれの関係機関から伺いたい。	—	—	ご参加いただきやすい日時等についてご意見をいただく。

団体名	神奈川県リハビリテーション事業団
課題区分	体制構築
(1)項目・内容	5 コアメンバー体制の構築 【内容】 ・医療と福祉が密に情報共有でき連携をとれる各専門機関のコアメンバーによる体制を作る。各機関からの情報の集約や発信の拠点とする ・保健福祉事務所、訪問看護事業所、基幹相談支援センターが情報共有する場を設け、両親の障害受容のタイミングに合わせて引き継ぐ準備をする
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	総合相談室、地域リハ支援センター等が相談窓口となっている。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	・具体的な相談はあがっていないが、神奈川リハ病院は医療機関として退院患者支援や地域からの問い合わせに対応している。 ・小児科医にも、関係機関からの問い合わせはないようで、親がハブとなり情報発信や情報提供を行っていると思われる。 ・県重心協で、児童発達支援事業所における学齢前の医療的ケア児童受け入れ調査を行ったとのこと。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	—